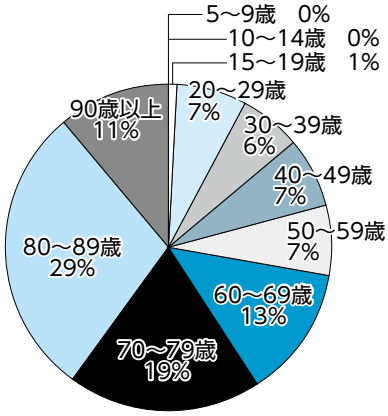
結核は現代の病気です

3月24日は世界結核デー（※）

結核は、昔の病気と思われがちですが、現在でも世界の総人口の3分の1の人が感染しています。日本でも、1日に50人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている重大な感染症です。

結核は決して他人事ではありません。早期に発見するために、結核について学んでみませんか。

年齢階級別　新登録結核患者数割合



▽出典　厚生労働省結核登録者情報調査年報（平成28年）

■結核は人から人にうつります　結核は結核患者がせきなどをした時に飛び散る「結核菌」を吸い込むことで感染し、主に肺に炎症を起こす病気です。

ただし、感染しても必ず「発病」するものではありません。

■高齢者だけの病気ではない　新たに結核と診断される人のうち、70歳以上の人が50パーセント以上を占めていますが、20～40歳の年代も20パーセントを占めています（上のグラフ）。

高齢者は若い頃に結核の流行を経験し、すでに結核に感染している人が多く、体力・抵抗力が低下したときに、眠っていた結核菌が目を覚まして発病することがあります。20～40歳の年代でも、海外渡航、不規則な生活習慣や過激なダイエットなどで抵抗力が低下し、発病することがあります。

■重症化する前に早期発見を　結核の初期症状は風邪の症状によく似ているため、見逃されてしまうことが多くあります。

また高齢者は、せきやたんなどの症状が現れないこともあります。

受診や診断の遅れから重症化することもありますので、イラスト1などの症状が見られたら、早めに医療機関を受診しましょう。

■結核と診断されたら　結核は、医療の進歩や生活水準の向上により、約6～9カ月間毎日、きちんと薬を飲めば治る病気です。医師の指示を守って、治療が終了するまで、きちんと薬を飲み続けることが大切です。

医師の指示通りに薬を飲まないと、結核菌が薬に対して抵抗力（耐性）を持ってしまい、薬の効かない結核菌（耐性菌）になってしまう可能性があります。

■予防のポイント　普段から健康的な生活を心掛け、免疫力を高めておくことが重要です（イラスト2）。免疫力が高ければ、感染しても発病には至りません。

また抵抗力の弱い乳児は、結核に感染すると重症になりやすいため、予防するためには計画的なBCG接種が有効です。

※細菌学者ロベルト・コッホが1882年に結核菌の発見を発表した日にちなみ、結核問題の重要性を警告し、対策の強化の必要性を訴えるため、1997年の世界保健総会にて、3月24日を「世界結核デー」と制定しました。世界各地で結核の啓発活動が行われます。

◎この特集についての問い合わせは、保健予防課☎(626)1114へ。

本文中に記載がないものは、原則として、対象＝どなたでも、費用＝無料、申込＝不要（定員の記載があり申込の記載がないものも、当日、直接会場へ）。HP＝ホームページ、✉＝Eメールアドレス、区＝地区市民センター、出＝出張所、涯＝生涯学習センター、参＝うつのみや表参道スクエア、コ＝地域コミュニティセンター、活＝市民活動センター